

はにぃ 『「話したい」思いを大切に』

令和3年11月4日

“I went to Yamanashi. I ate *houtou*. It was yummy! Do you like *houtou*? (山梨に行って、ほうとうを食べたよ。ほうとうは好き?)” “Yes, I love it! (うん、大好き!)”

小学校6年生の外国語の授業のひとつです。各自のノート型パソコンに自分で準備した画像を映し出し、夏休みの思い出を振り返りながら、子どもたちはそれぞれに自分の思いを語っています。聞き手の一人は、発表を別のパソコンで録画しています。途中、聞き手への質問が入ると、聞かれた児童も自分の思いを率直に伝えます。英語で話されていることを思わず忘れてしまうくらい、スムーズなやり取りです。



それぞれの発表が終わると、互いにコメントを伝え合います。「目を見て話してくれるから、伝えようとしてくれていたことがわかるよ」

「ジェスチャーと内容がつながっていてわかりやすかったよ」

「質問をして、答えをもらったあと、更に関連した質問ができるのもっといいよね」

コメントを受け「もう1回やってみてもいい?」と発表した児童が言うと、2回目の練習が始まりました。聞き手の一人はその場ですぐにパソコンに録画します。端末の操作も手馴れています。

発表練習が終わると、それぞれのグループで活動を振り返り、クラス全体で伝え合います。

「あいづちをしながら聞いてくれてうれしかった」

「どうしてうれしいと感じたの?」

「ちゃんと伝わっているんだな、って思えたからかな」

担任の先生の言葉かけが、子どもたちの素直な気持ちを引き出します。

授業後に担任の先生にどんな思いで授業に臨まれたのかを聞きました。

「今回はコロナ禍もあり、話す内容は『今年の夏のことでなくてもいい』という条件にしました。日頃から子どもたちの『話したい』という思いを大切にしています」

子どもたちは、1人1台ずつのノート型パソコンを文房具のような感覚で使いながら、発表練習を繰り返していました。互いのかかわりの中で伝わった喜びを実感し、子どもたちの「話したい」という思いはどんどん膨らんでいきます。

『はにぃ』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合いましょう。

ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp